

## 令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	31	学校名	清水東高校定時制の課程	記載者	井島 秀樹
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	いじめ根絶	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの件数0件</li> <li>巡回時の生徒指導0件</li> <li>ネットパトロールからの指摘0件</li> <li>学校は安心して生活する事ができる場所だと感じている生徒・教員100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの卑劣さ、絶対悪を生徒はよく理解しているようで、学校の努力に感謝したい。</li> </ul>
	登下校及び学校生活中における事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内での事故0件</li> <li>登下校時の交通事故0件</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>世間一般的であるが、自転車に乗り、スマホを操作している姿はかなり少なくなった。</li> </ul>
	防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災訓練は大切である。」と答える生徒100%</li> <li>「家庭で非常時の準備をしている。」と答える生徒90%以上</li> <li>地域の防災訓練参加率50%以上</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加率50%以上を目標とするのは無理がある。地域防災訓練は土日実施のため、ボランティア意識の向上がなければ無理でしょう。</li> <li>地域の防災訓練への参加は、呼び掛けに加えて、実施日を確認させることも必要。</li> </ul>
イ	<b>挨拶と丁寧な言葉遣いができる。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自ら挨拶することができる。」と答える生徒100%</li> <li>「誰にでも丁寧な言葉遣いができる。」と答える生徒100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT機器の普及の中、人と直接会って言葉を交わすことの大切さを分かっている。また、教員の数値あつての生徒の数値であると思う。</li> </ul>
	<b>ソーシャルスキルの育成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソーシャルスキルに関する項目について、身についた。」と答える生徒100%</li> <li>SELやSSTを実践することができたと答える教員100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCの利用でSELの内容が濃くなるのでは、と思う。</li> </ul>

	<p><b>自己肯定感を高める。自己の成長を実感できる。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の強み(良さ)を3つ以上答えられる生徒70%以上</li> <li>・「自分は成長した。」と答える生徒 100%</li> <li>・「生徒ができるようになった事に注目して声掛けができた。」と答える教員 100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のストロングポイントと同時に、ウィークポイントの認識も必要であると思う。プラスを伸ばし、マイナスを減らすことで成長させていって欲しい。</li> </ul>
	<p><b>欠席、遅刻を減らす。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の出席率 95%以上</li> <li>・毎日の遅刻平均 3人以内</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれも目標の数値を超えていて、生徒の向上心が感じられる。</li> </ul>
	<p>教職員間及び家庭との連携充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報共有ができた。」と答える教職員 100%</li> <li>・「必要な際に、生徒及び家庭と情報共有できた。」と答える教員 100%</li> <li>・公式 SNS による情報発信を 50 件以上行う。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有で 100%の教員が「できた」と答えることは、様々な分野でかなり努力されているのだと思う。問題があってもコミュニケーションの範囲内で解決できるのではないか。</li> </ul>
	<p>法律及び校内ルールの遵守の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導 0 件</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導が 4 件発生したことは残念であるが、外部機関や特別支援学校等の協力も得られているとのことで安心していている。</li> </ul>
ウ	<p><b>多様性に対応した個別最適な学びの実践</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「静岡市発達障害者支援センター「きらり」との連携が有用だった。」と答える教員 100%</li> <li>・「中学校時より学力が向上した。」と答える 1 年生 100%</li> <li>・「TTにより、理解が深まった」と答える生徒 100%</li> <li>・「授業内業が全く理解できない。」と答える生徒 0%</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の 100%に達していないとのことだが、「きらり」との連携を有用とする生徒が在籍することを考慮すれば、Aと評価しても良い。</li> <li>・ダイバーシティに基づく学びの実践は昔では考えられなかったことで素晴らしい。目標値に至らなかったとしても、十分に目的は達せられているのではないか。</li> <li>・引き続き、外部機関と連携した多様性理解教育を推進してほしい。</li> </ul>
エ	<p>校務や授業への一人一台端末や学習系クラウドサービスの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校務や授業で一人一台端末を活用することができた。」と答える教員 100%</li> <li>・研修などで学んだことを業務や授業に取り入れた教員 100%</li> <li>・「一人一台端末を活用することにより、学力が向上した。」と答える生徒 80%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に必須となった IT 機器の活用を生徒に習得させるために、まず教員が慣れる必要があるということを理解されていると思う。</li> </ul>

様式第5号

	<b>観点別学習状況評価を基にした授業改善の実践</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員 100%</li> <li>・「学習評価を基に授業改善を行う事ができた。」と答える教員 100%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い授業を行い、より適切な評価をするために3点に整理された観点別学習評価を活用されているようで、大変良いと思う。</li> </ul>
オ	スクールカウンセラー（SC）と連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SCを利用したことにより状況が改善した。」と答える生徒 80%以上</li> <li>・「SCを利用したことにより生徒の様子が改善した。」と答える教職員 80%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCの活用により生徒のメンタルサポートをして欲しい。</li> </ul>
カ	<b>キャリア教育の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「講演会を聞いて、自身のキャリアについて考えるようになった。」と答える生徒 100%</li> <li>・「アルバイト等に就いている。」と答える2年生以上の生徒 80%以上</li> <li>・「自分の希望する進路が実現できた。」と答える卒業生 100%</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の進路について考えていなかった生徒が数名いたことは残念。進路指導のみでなく、他の機会でも話題にしていく事が必要ではないか。</li> <li>・インターンシップやボランティア活動をした経験があることは、卒業生を受け入れる大学・専門学校や就職先等にとって、重視したいポイントであると考えます。</li> <li>・82%の生徒が自身のキャリアについて考えるようになったと答え、75%の生徒がアルバイトに就いているのは、目標に対して上出来であると思う。</li> </ul>
キ	休暇取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休暇取得率 100%</li> <li>・年休取得率 80%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取得率が高いということは、魅力のある職場と見える。</li> </ul>
	<b>退勤時間の厳守</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月間の超過勤務時間平均 20 時間未満</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月間の超過勤務時間の平均が 14.1 時間だったということは、業務の効率化が具現化されたのだと思う。</li> </ul>
	業務の削減及び見直しの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議資料のペーパーレス化 100%</li> <li>・学校経営計画を踏まえた各分掌の業務、1つ以上削減</li> <li>・学校経営計画を踏まえた各教職員の業務、1つ以上削減</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化は、世のあらゆる部門で必須である。働き方改革を更に進めてほしい。</li> </ul>

## 令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	31	学校名	清水東高校定時制の課程	校長名	井島 秀樹
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	いじめ根絶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの件数0件</li> <li>・巡回時の生徒指導0件</li> <li>・ネットパトロールからの指摘0件</li> <li>・学校は安心して生活することができる場所だと感じている生徒・教員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0件</li> <li>・0件</li> <li>・0件</li> <li>・生徒 92.7%、教員 100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや巡回中の問題行動はなく、ネットパトロールの結果を見ても、生徒がマナーを意識してスマホを利用していると思われる。</li> <li>・多くの生徒が安心して学校生活を送っていることが分かるが、一部の生徒が不安を抱えて登校していることも分かった。</li> </ul>
	登下校及び学校生活中における事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内での事故0件</li> <li>・登下校時の交通事故0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1件</li> <li>・1件</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会で負傷した生徒がいたが、迅速な対応ができた。</li> <li>・自転車と自動車の事故だったが、ヘルメットの着用により、大きな事故にはならなかった。ヘルメットの着用を継続して呼び掛けていきたい。</li> </ul>
	防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災訓練は大切である。」と答える生徒 100%</li> <li>・「家庭で非常時の準備をしている。」と答える生徒 90%以上</li> <li>・地域の防災訓練参加率 50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100%</li> <li>・83.3%</li> <li>・4.8%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の大切さは理解している。</li> <li>・防災についての準備は昨年度より微減している。</li> <li>・地域防災訓練の参加率は昨年度と大差がなく、低調である。地域の防災訓練の日時を確認できるように指導する必要がある。</li> </ul>
イ	挨拶と丁寧な言葉遣いができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自ら挨拶することができる。」と答える生徒 100%</li> <li>・「誰にでも丁寧な言葉遣いができる。」と答える生徒 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100%</li> <li>・100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が挨拶や丁寧な言葉遣いを意識していることが分かる。生徒と教員の関係性が良いことの表れであるが、今後は、外部講師や来客等へのかかわり方等の指導もしていきたい。</li> </ul>
	ソーシャルスキルの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャルスキルに関する項目について、身についた。」と答える生徒 100%</li> <li>・SEL や SST を実践することができたと答える教員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・98.8%</li> <li>・100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の様子から気持ちを感じることや状況に応じた行動をとることができる生徒が増えている。</li> <li>・全ての教員が実践している。今後は、校内研修により実践内容を深化していくことが必要と考える。</li> </ul>

様式第3号

イ	<p><b>自己肯定感を高める。自己の成長を実感できる。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の強み(良さ)を3つ以上答えられる生徒70%以上</li> <li>・「自分は成長した。」と答える生徒 100%</li> <li>・「生徒ができるようになった事に注目して声掛けができた。」と答える教員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 73.8%</li> <li>・ 90.2%</li> <li>・ 100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の強みを3つ以上答えられた生徒は、昨年度から増加し、目標を達成することができた。</li> <li>・昨年度に比べ、「自分は成長したと感じている生徒」は減少してしまったが、「全く成長を感じない」と回答した生徒には学校生活への意欲が落ちないように声掛け等を行っている。</li> <li>・教員が授業や学校行事においてや生徒の学習意欲が喚起されるように声掛けをし続けている。</li> </ul>
	<p><b>欠席、遅刻を減らす。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の出席率 95%以上</li> <li>・毎日の遅刻平均 3人以内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 95.1%</li> <li>・ 1.26人</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席する生徒が一人見られたが、多くの生徒が元気に登校している。教員の声掛けや授業進度、学校行事の内容が、生徒にとって適切であると考える。</li> </ul>
	<p><b>教職員間及び家庭との連携充実</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報共有ができた。」と答える教職員 100%</li> <li>・「必要な際に、生徒及び家庭と情報共有できた。」と答える教員 100%</li> <li>・公式 SNS による情報発信を 50 件以上行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%</li> <li>・ 100%</li> <li>・ 50 件</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間の情報共有は、職員室や生徒相談室で、個人情報の保護に留意しながら適切に行うことができた。</li> <li>・教員と家庭との情報共有は十分にできたが、家庭への連絡が夜遅くなることもあり、課題があると感じた。</li> <li>・SNS と学校ホームページを連携した情報発信についても継続して行っている。</li> </ul>
	<p><b>法律及び校内ルールの遵守の徹底</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導 0 件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 件</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の原因に、発達障害等、当該生徒の特性によるものが見られた。「きらり」等の機関や清水特別支援学校の協力を得ながら、社会性を身に付ける指導に取り組むことによって改善したい。</li> </ul>
ウ	<p><b>多様性に対応した個別最適な学びの実践</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「静岡市発達障害者支援センター「きらり」との連携が有用だった。」と答える教員 100%</li> <li>・「中学校時より学力が向上した。」と答える 1 年生 100%</li> <li>・「TT により、理解が深まった」と答える生徒 100%</li> <li>・「授業内業が全く理解できない。」と答える生徒 0%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%</li> <li>・ 92.7%</li> <li>・ 88.5%</li> <li>・ 7.3%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きらり」からの助言や情報提供が適切で、授業や生活指導に活用しやすいことが 100% という結果になっている。今後も連携していきたい。</li> <li>・学力向上を感じている 1 年生が多い。今後は、「どの科目にも前向きに取り組む」といった姿勢や態度を身に付けられるよう、学習指導以外からのアプローチも必要と考える。</li> <li>・92.7%の生徒が授業を理解することになる。全体指導と個別指導のバランスを図りながら学習指導を進めていきたい。</li> </ul>

様式第3号

エ	校務や授業への一人一台端末や学習系クラウドサービスの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校務や授業で一人一台端末を活用することができた。」と答える教員 100%</li> <li>・研修などで学んだことを業務や授業に取り入れた教員 100%</li> <li>・「一人一台端末を活用することにより、学力が向上した。」と答える生徒 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%</li> <li>・ 100%</li> <li>・ 78.6%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GoogleClassroom や C-learning 等、教員と生徒のタブレット端末の活用は日常化しており、無くてはならないものになっている。今後は、業務の効率化を促進するアプリケーションの導入を検討したい。</li> <li>・ 年度始めに個人情報等の管理に関する研修を行った。タブレット端末や NES パソコンへの情報の保存に関するルールに基づいて活用できた。</li> <li>・ タブレットは、生徒にとってスマートフォンより学習に活用しやすく、筆記用具のように気軽に使えている。様々な教育活動の場面で使えるように教員のスキルアップと合わせて活用を促進したい。</li> </ul>
	観点別学習状況評価を基にした授業改善の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業内容を精選し、生徒に合わせた授業実践ができた。」と答える教員 100%</li> <li>・「学習評価を基に授業改善を行う事ができた。」と答える教員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%</li> <li>・ 100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期訪問での指導助言の活用や、授業での生徒の様子を職員間で共有することができていることが 100%につながっていると考える。</li> <li>・ 観点別学習評価を基に学習集団にとって適切な課題の設定や授業実践を行うことができた。今後は、シラバスや年間指導計画の改善につなげていきたい。</li> </ul>
オ	スクールカウンセラー（SC）と連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SCを利用したことにより状況が改善した。」と答える生徒 80%以上</li> <li>・「SCを利用したことにより生徒の様子が改善した。」と答える教職員 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%</li> <li>・ 100%</li> </ul>	A	<p>定期的にスクールカウンセラーと面談をする環境があることは生徒のメンタルサポートの助けになっている。スクールカウンセラーを活用した生徒は7人であり、定期的にカウンセリングしてもらっている生徒は2～3人と少ない。</p>
カ	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「講演会を聞いて、自身のキャリアについて考えるようになった。」と答える生徒 100%</li> <li>・「アルバイト等に就いている。」と答える2年生以上の生徒 80%以上</li> <li>・「自分の希望する進路が実現できた。」と答える卒業生 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 82.9%</li> <li>・ 75.0%</li> <li>・ 100%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の進路について考えることを全く思わなかった」と回答する生徒も7人おり、講演会後の指導や面談等で進路について話題にしていく必要がある。</li> <li>・アルバイト従事率は、昨年度に比べ微減している。面接等が苦手でアルバイトに落ちている生徒がいることを踏まえ、インターンシップの活用から従事率を上げていきたい。</li> <li>・卒業生は、希望する進路先に就職や進学を決めている。</li> </ul>

様式第3号

キ	休暇取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休暇取得率 100%</li> <li>・<b>年休取得率 80%以上</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%</li> <li>・ 100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休暇の取得率や年休の計画的な取得ができた。今後は、出張先からの居住地着や、看護休暇等の利用が促進されるように意識していきたい。</li> </ul>
	<b>退勤時間の厳守</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月間の超過勤務時間平均 20 時間未満</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 14.1 時間</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退勤時間を意識して業務にあたることで、超過勤務時間が減少していると思われる。今後は、教員が放課後の部活動の終了時刻に注意し、退勤時刻が終業時刻である 21:30 を超えない日を多くしていきたい。</li> </ul>
	業務の削減及び見直しの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議資料のペーパーレス化 100%</li> <li>・学校経営計画を踏まえた各分掌の業務、1つ以上削減</li> <li>・学校経営計画を踏まえた各教職員の業務、1つ以上削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100%</li> <li>・ 6つの業務を削減</li> <li>・ 6つの業務を削減</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から実施している職員会議資料や名簿等の個人情報に関する資料のペーパーレスを継続することができた。</li> <li>・分掌業務や担当業務において削減や効率化を進めることができた。業務の効率化による業務の重点化を促進していきたい。</li> </ul>